

オタの皆さん必見! mixi再ブームのチャンス!?

私たちの世代でmixiと聞いて知らない人はいないだろう。

私たちが初めて触れた(会員制交流サイト) SNSツールと言っても過言ではなく、
中高時代の<恥ずかしい>青春がつまっている思い出のmixi…。

現在ではmixiブームはとうに過ぎ去り、皆Facebookに移行している。

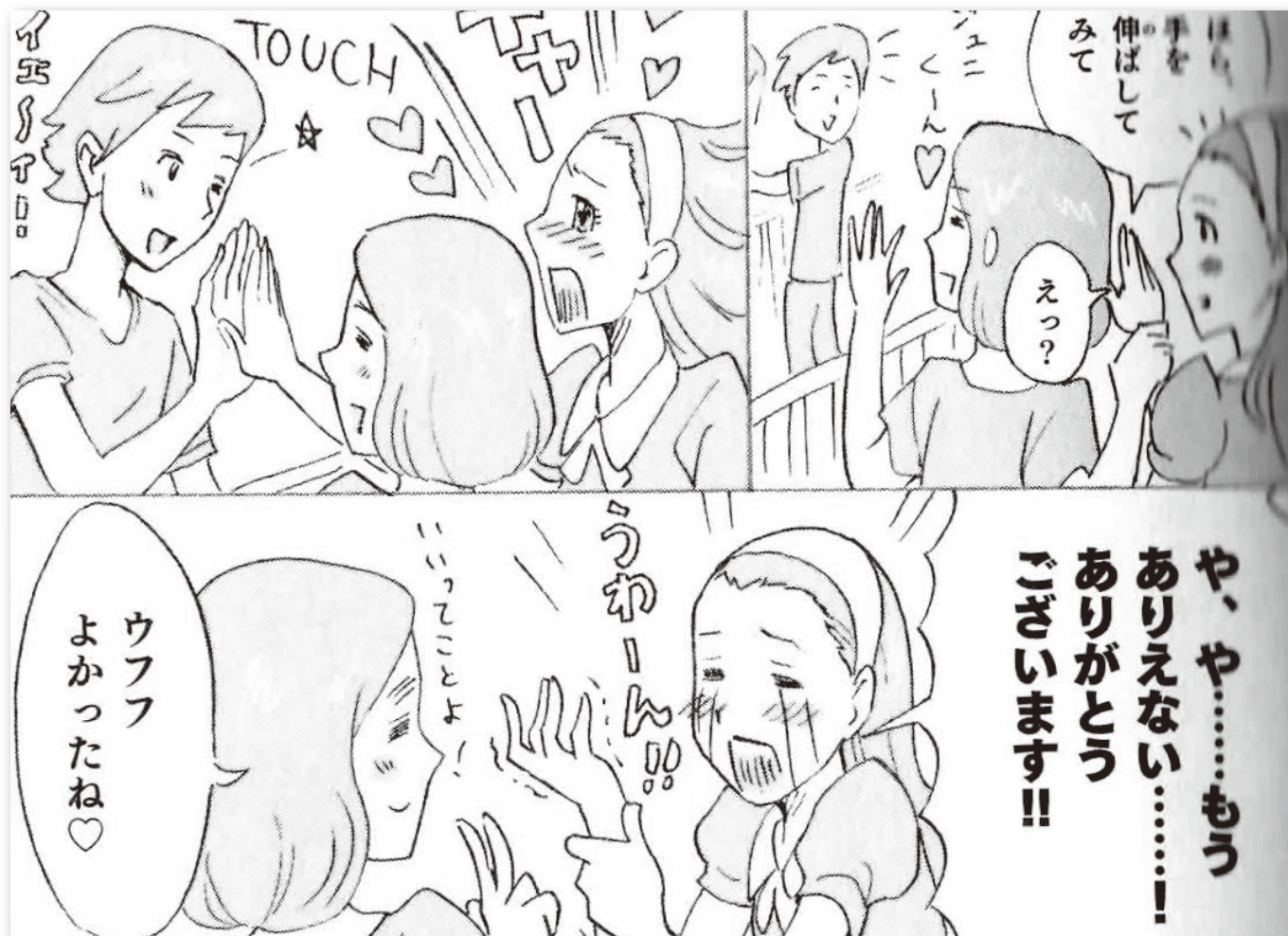
“リア充感”を漂わせた投稿の並ぶFacebookに比べ、

「mixiなんてまだ使っているの(笑)」と言われていているところだろう。

が、mixiにブームの過ぎた雰囲気は漂っていようと機能自体は優れている。

FLP社ゼミ生・学生記者 石崎春日子(文学部3年)

コミュニティでジャニ友たちとあるある話に花を咲かせたい



ジャニーズオタクの方なら
絶対共感できてしまうであろうこれら様々なこと…。
mixiだったら、
ブログでコンサートの思い出をつらつらと残し、

タイトル『ジャニヲタ談話室!』
著・みきーる／漫画・二平瑞樹
出版社 イースト・プレス

多様な活用ができた、と素晴らしいことばかり!!



何よりも潜在的にmixiを求めている人たちがいる。そう、オタクのあなた。あなたにとって今のSNSは果たして使いやすいだろうか。

私は昨年1年間、『Myojo』（集英社）というジャニーズ雑誌を対象に編集部・読者インタビューや内容分析な

どの研究を行った。

その結果、『Myojo』読者であるジャニーズファンの人たちはオルタナティブメディア（＝雑誌に代わるメディア媒体）として主にTwitterを利用していることが分かった。しかしファンである彼女たちにとって、利用には不

満だらけであり、流行りだから利用しているだけということも判明した。何が不満なのか。3点、挙げてみる。

①140字という字数制限のため、ライブ・イベントに参戦したときのレポートなどをまとめて伝えることができない。プロフィール欄にも文字制限

オタの皆さん必見! *mixi* 再ブームのチャンス!?

がある。ファン同士が交流するのに相手のことが分かる大事なところであり、情報を多く載せて自分が誰のファンなのか、どんな人物なのかアピールしたいのに、これだとあまり多くは書けない。

②タイムライン(=フォローしている人や自分のつぶやきが表示されるページ)の流れが速いため、後で見たいときはそのつぶやきを「お気に入り」にするしかない。現状では本当のお気に入りと後で見る用と区別ができない。

次の③が最大の不満点だ。

Twitterは即時性には適しているが、それゆえ「残す」ことができない。自分のつぶやきを残すこと、後で振り返ることも大切である。

人との交流の中で自分を主張したいジャニーズファンたちにとって、自分の大事な記録が形として残せないのは、自らの活動の証が消えてしまうような心持ちだろう。

こうした結果を受け、そもそも「流

れ」を楽しむSNSであるTwitterを自分主張の強い「残す」ことが好きなジャニーズオタクたちが、主として利用していること自体、無理があると感じた。しかしそんな欠点をカバーできるものがほかにあるだろうか。

ふと浮かんできたのが、懐かしのSNS…。mixiを思い出してもらいたい。mixiのプロフィール欄は字数を気にせずに長々とつらつらと書くことができる。

自己主張もばっちりできる。ブログ機能があるから、イベントレポや自分が語りたいアイドルへの愛なども長々と綴ることができ、(タイムラインに)流れることなくしっかり残すことができる。

大事なのがコミュニティ機能だ。SNSの利用では情報交換とともにファン同士の交流が多い。ファン同士の交流もコミュニティで円滑にまわすことができるだろう。

さて、忘れてはいけないタイムライン機能だが、mixiにはタイムライン機

能が存在する。Twitterほど整備されてはいないが、それは今後mixi側に改善してもらいたい。“リア充”がFacebookに流れている今、オタクが生息しやすい場所、それがmixiである。

オタクにとって、こんなにも痒いところに手が届くコンテンツが、ほかにあるだろうか。こうなってくるとなぜこんなにも便利なのに、mixiを利用しないのか、不思議なくらいである。

私自身アイドルオタクなので(ジャニーズではない)もちろんオタ用にTwitterを利用しているが、不便に思うところが本当に多かった。

これを機にジャニーズに限らず、オタクたちのオルタナティブメディアをmixiにするのはどうだろうか。



この研究は、中大FLPジャーナリズムプログラム辻泉ゼミで行いました。『Myojo』チームを組み、加藤菜美(文4)、秋元美保(文3)、石崎春日子(文2)による考察の結果です。

もっと 知りたい

■FLPジャーナリズムプログラム辻泉ゼミ

FLPプログラム、ジャーナリズムプログラムの中でも受験者が毎年多いことでも知られています。雑誌を研究対象とし、文献購読・フィールドワークを行い、その先を見据えて、その分野の未来を自分たちで考察します。今年の研究対象は男性ファッション誌。最終的には「未来の男らしさ」について、ズバっと予測します。ゼミでは「雑誌研究」のほかにも多様なテーマに取り組んでいます。

■ゲリラ戦!?

何より面白いのが、話の分かる辻先生と個性豊かなゼミ生たちが織りなす人間模様で、「正規戦」より「ゲリラ戦」タイプの学生が多くいます。我こそはと思う1年生は、ぜひ応募を!

■mixi社長は中大OB

mixi社長の森田仁基(ひろき)氏(37)は中大卒。6月の株主総会で執行役員から昇格しました。